九月五雲能

九月十八日（土）
午後一時始

13:00

生田敦盛

シテ 藤井 秋雅
子方 稲田 海音
ワキ 御厨 誠吾
大鼓 柿原 孝則
小鼓 曽和 伊喜夫
笛 成田 寛人
後見 宝生 和英
澤田 宏司
金森 隆晋
地謡 辰巳 和磨
金野 泰大
當山 淳司
渡邊 茂人
朝倉 俊樹
藤井 雅之
佐野 玄宜

13:40

磁石

三宅 右矩
三宅 近成
高澤 祐介

〈休憩十五分〉

14:20

井筒

シテ 山内 崇生
ワキ 舘田 善博
間 金田 弘明
大鼓 安福 光雄
小鼓 観世 新九郎
笛 槻宅 聡
後見 金井 雄資
野月 聡
地謡 金森 良充
佐野 弘宜
藪 克徳
小倉 伸二郎
武田 孝史
金森 秀祥
亀井 雄二

〈休憩十五分〉

16:15

殺生石

シテ 上野 能寛
ワキ 野口 琢弘
間 前田 晃一
大鼓 内田 輝幸
小鼓 坂田 正博
太鼓 澤田 晃良
笛 熊本 俊太郎
後見 東川 光夫
小林 晋也
地謡 金井 賢郎
辰巳 大二郎
内藤 飛能
和久 荘太郎
高橋 亘
小倉 健太郎
東川 尚史

終演予定十七時十五分頃

演目の解説

能「生田敦盛」（いくたあつもり）

法然上人は賀茂の明神に参詣の折に、捨てられていた男の子を拾います。その子が十歳になったとき、説法に集った聴衆に尋ねると母親が名乗り出、父親は一の谷で果てた平敦盛であったことを明かします。夢でも父に逢いたいと願う子は賀茂の明神に社参し、告げを受け僧も同道して生田の森に下ります。日が暮れて宿を探す二人は一軒の庵で、我が子に会うため冥宮から戻って来た在りし日の姿の敦盛の霊と対面します。父を慕ってすがりつく子を宥め、平家の運命を語り、舞を舞って、また修羅道の巷に帰って行きます。

能「井筒」（いづつ）

在原寺の跡を訪れた僧の前に一人の女が現れます。水を汲み、花を手向ける女に不審を抱いた僧は言葉をかけ、業平に所縁のある人かと尋ねます。女は生きている時から昔男と言われていた業平に何の所縁がありましょうと答えますが、紀有常の娘と業平の恋物語を語り、紀有常の娘の霊であることを仄めかして井筒の陰に消えてしまいます。その夜、僧の夢に業平の姿で現れた女は、美しい舞を舞い、井筒を覗き込み、そこに恋しい業平の姿を見て、夜の明けると共に去って行きます。世阿弥作にして能を代表する屈指の名曲です。

能「殺生石」（せっしょうせき）

那須野を通りかかった玄翁という僧は、石の上を飛ぶ鳥がふらふらと落ちるのを見て不審に思っていると、「その石のそばに立ち寄るな」と言いながらに女が現れます。女はその石は「殺生石」と言って、帝の側にいて王朝を傾けようとした「玉藻の前」という狐の精が、安倍泰成に正体を見破られ、ここに飛んできて石となった謂れを語ります。女が石の陰に消え失せ、玄翁が石に向かって祈ると狐の本体が現れ、三浦、上総の両介に退治された有様を見せます。

チケット料金
（税込）
一般　5,500円
学生　2,750円
（当日学生証提示）

ご購入は
オンラインチケット
または
宝生会事務局まで

2021/7/9